

不動産証券化市場も地方の時代に

平成9年度末の約600億円から17年度末には約20兆円の市場規模へと飛躍的な拡大を続けている不動産証券化市場。社会的認識も高まり、プライベートファンドやREITが発行する証券化商品は、個人や機関投資家の投資ポートフォリオの中でもそのウエイトが年々高まっている。首都圏ではすでに運用対象となる不動産が不足し、不動産投資ファンド会社などが大都市で積極的な物件取得に動いている中、仙台圏においても市中心部の県中央警察署跡地が高値落札されるなど、ここ1年ほどの間の不動産取引の活発化は周知の通りである。このことは、東北随一の都市

森トラストとオリックスの担当者招き第2回セミナー開催

参加者募集 6月23日に仙台市戦災復興記念館で

仙台が投資の対象として相応しい全国の認識を受けた証左であるともいえるだろう。また、最近の民間建設市場が「不動産を制する者が建設を制する」状況となつていくことを実感する業界関係者も多いはずだ。

こうした中、大手税理士法人の辻・本郷税理士法人(東京本部・東京都新宿区西新宿1丁目25の1 理事長・本郷孔洋氏)と弁護士や税理士などの有資格者や、金融・建設・不動産などの分野で活動するメンバーで構成し、資産活用をサポートするコンサルティング・コーディネーター活動を行っているアセット

ブレインズ仙台ネットワーク(事務局・仙台市泉区上谷刈1丁目7の3 5 事務局長・佐々木正之氏)は共催で、6月23日(金)の14時から仙台市青葉区大町の仙台市戦災復興記念館で「不動産フォーラム2006

イン仙台」地方都市における不動産証券化ビジネスセミナー」を開催する。今年1月に開催し、定員以上の申し込みがあつたセミナーの第2回目となる。前回に続き建設新聞社などが後援する。

取得した森トラスト専務取締役の吉田武氏が「森トラストの考える21世紀の新しい街づくり」と題して、同跡地の大規模プロジェクト構想や同社の第3ステージ「複合企業体」への事業展開について講演を行う。第2部では、オリックス東北ブロック長の木本幸憲氏が「開発型不動産証券化の概要と実践手法」として、地方企業における不動産証券化ビジネスとオリックスの役割についてや、開発型不動産証券化の基本的仕組みと事例研究に

関し解説。最後に第3部では、共催者を代表しアセットブレインズ仙台ネットワークの佐々木事務局長が「仙台・東北圏の最新不動産証券化事情」について解説する。

仙台市中心部で今一番大きな注目を集める東北学院跡地のデベロップメントを担当する森トラストと、不動産証券化市場のフロンティア企業とも言えるオリックスというビッグネームの担当者によるコラボレーションセミナーであるだけに業界関係者のみならず大きな注目を集めそう。アセットブレインズの佐々木事務局長は「盛況だった前回のセミナーで不動産証券化市場に地方のプレイヤーも熱い思いを持っていくことが確認できた」とし、「約4時間にも及ぶセミナーとなるが、不動産証券化市場もまさに地方の時代に入ったことを体感できる時間を提供できるはず」と開催への抱負を語っている。

セミナーは3部構成で、第1部では昨年11月に仙台市青葉区一番町の東北学院中・高跡地を

なお、セミナーへの申し込み(参加費・資料代等として1名あたり5,000円)はセミナー開催事務局へ④FAX02-2126317742または②Eメール sec@assetbrainz.jpで、企業名、役職、参加者名、住所、電話番号、FAX番号、Eメールを明記のこと。

セミナーや参加費支払方法に関する問い合わせは、▽辻・本郷税理士法人仙台支部(☎022-26317741)、または、アセットブレインズ仙台ネットワーク(☎022-77316685)、その他の問い合わせは、弊社編集部(☎02-222114602 担当・引地)まで。

辻・本郷税理士法人とアセットブレインズ仙台NWが共催、本紙など後援